

「協同組合による地域貢献―J A の生活支援の活動から考える地域づくり―」の刊行にあたって

小誌は令和5年3月3日に開催したJ A 共済総研セミナー「協同組合による地域貢献―J A の生活支援の活動から考える地域づくり―」の特集号です。昨年度のセミナーに続き、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、オンラインにより開催しました。

J A の生活支援の活動は、昭和36年の農協大会にて「生活改善活動の積極化」が決議され、その後組織的な展開が進められました。また近年では、政府が策定した計画等において、農村地域の産業や生活のインフラを支える役割を果たすことを求められるとともに、RMO（地域運営組織）等多様な組織との連携による地域形成の必要性が述べられています。自助・互助による地域づくりを考えるうえで、J A の活動は地域の生活支援を通じ、今後農家組合員のみならず地域社会全体への貢献を果たす可能性を秘めていると考えられます。

そこで、本セミナーではJ A の組合員・地域住民による生活支援の活動について、次の通り、研究者の基調講演と、実践者の報告により構成し、開催しました。

【セミナー実施項目】

・基調講演

「J A はじめ協同組合の地域における活動の可能性」

北川太一氏（撰南大学農学部 教授、日本協同組合学会 会長）

・事例報告①

「皆の願いを実現する地域協同の取り組み

―人と人との支え合いの循環があんしんして暮らせる里をつくる―」

池田陽子氏（特定非営利活動法人J A あづみくらしの助け合いネットワークあんしん代表理事理事長）

・事例報告②

「高齢者が元気に過ごせる酪農地域を目指して

―J A はまなかデイサロン15年間の取り組み―」

竹内美妃氏（J A はまなかデイサロン運営団体 キャンナス釧路 代表 医学博士、看護師、酪農家）

生活支援の活動の地域での必要性を感じていらっしゃる方の参考となり、助け合いの輪が広がっていくことを願い、セミナー議事録を取りまとめましたので、是非ご一読いただきたく願います。

セミナーのアンケートを見ると、「とても良かった」との声が多く、テーマ・内容については「引き続き協同組合の原点に立ち返れるようなテーマを期待する」「今回のような現場で活躍されている方の生の声を聴かせていただける場を提供いただきたい」などのご意見をいただきました。当研究所としてもセミナーも含め、今後も引き続きこういった声に応える情報発信をしていくことの大切さを再認識いたしました。

最後になりますが、当セミナーの趣旨にご賛同いただき、講演・報告いただきました皆様、この場を借りてあらためて心よりお礼申し上げます。